たいとふぐ　大阪府

むかし、和泉(いずみ)の国の岡田浦(おかだうら)で、たいとふぐが漁師の網(あみ)にかかって死んでしまいました。たいとふぐは、連れ立って西に向かって歩いて行きました。すると、極楽(ごくらく)の門に着きました。極楽の門には、鬼(おに)の門番がいて、

「おまえたちは、どこから来た」とききました。

たいは、

「わたしは、和泉の国の岡田浦で網にかかったたいです。どうか極楽に入れてください」といいました。鬼は、

「そうか、たいという魚は、めでたい魚だ。結婚式やら正月やら、めでたいときに人間を喜ばせるから、極楽に入れてやる」といって、極楽の門を開けて、中に入れてくれました。

つぎに、鬼は、ふぐに向かって、

「おまえはどこから来た」とききました。ふぐは、

「わたしも、たいといっしょに、和泉の国の岡田浦で網にかかったふぐです。どうか極楽に入れてください」といいました。鬼は、

「いやいや、おまえは、毒(どく)を盛(も)って人間を苦しめたから、極楽へは行けん。地獄(じごく)行きだ」といいました。

ふぐは、もじもじしていましたが、極楽の門が少し開いているのを見つけました。そして、すきまからさっと中へ入って、門を閉めてしまいました。それから、

「ふぐは内、鬼は外」といって、豆をまきましたとさ。

おしまい。

村上郁再話

資料『昔話研究二』「泉南郡昔話」山口康雄